

京都工業会 ニュース

基本理念

—21世紀を担うモノづくり集団—

京都からモノづくりイノベーション

2014 No.380

平成26年度 広島県産業視察

10/7・8

“独自技術が光る製造業の集積を訪ねる”

平成26年10月7・8の両日、服部会長を団長とする16名が広島県の産業視察を行った。

独自の最新技術で我が国の自動車産業にオリジナルな位置を占めるマツダ(株)をはじめ、繊維業界から産業用無人ヘリコプター、プラスチック製品の製造業へと業種転換を図ったヒロボー(株)、自動車部品の加工から人工関節の長寿化への研究開発に取り組む(株)ハマダなど、時代の変化に的確に対応し、成長し続ける広島県の製造工場等を訪問した。

なお、今回の視察においては広島県大阪情報センターのご配慮をいただいた。

10月7日

■カイハラ(株) (福山市)

資本金1億5千万円、従業員659名。1893(明治26)年創業、1951(昭和26)年設立。会長の貝原良治氏自ら工場案内をしていただいた。本社のほか広島県内に3工場を有する。元は備後緋を生産、藍染め技術を生かして、1970年からはデニム生産に専念される。

デニム素材の一貫生産を行い、ユニクロやEDWINをエンドユーザーとするデニムにおける世界的なリーディングカンパニーである。

「自然の恵みを生かした最善の技術から最良のテキスタイルを生み出すこと」を企業理念とし、国内ジーンズの2本に1本がカイハラのデニムを素材として作られている。質量ともに世界で有数のデニムサプライヤーである。7年前に海拔580mの山中に160億円を投資した広大な工場を見学した。アメリカ、ブラジルなどから輸入した綿花をブレンディングして紡績し、染色される。インディゴブルーのほかに最近ではブラックも人気である。和紙によるデニムも研究。工場は24時間341日体制で稼働している。

ジーンズの世界市場は25～27億本で、カイハラは年4000万メートルを生産。もちろん制服はデニムのジャケットにジーパン。カッコイイ。タイに工場を建設中。

どこまでもエネルギーな貝原会長。平成25年には

ものづくり日本大賞優秀賞を受賞されている。



▲カイハラ(株)にて

■ヒロボー(株) (府中市)

資本金8千万円、従業員168名。1949(昭和24)年広島紡績として設立。年商27億円。社長松坂晃太郎氏。

1985(昭和60)年に業種転換を図り、繊維業から電気機器製造、プラスチック成型を主事業にし、髪染のビゲンの容器、グリコのチョコレート容器、デンソーやマツダのプラスチック部品を生産している。

しかし、先代社長の、災害の際に血液輸送ができないかとの強い思いから始められた無人ヘリの製作は、会社のショールーム、ギャラリーに大小150機の競技用・ホビー用無線操縦模型として陳列されており、産業用無人ヘリコプター、ラジコンヘリコプター分野で世界のトップメーカーとなる。

平成2年には農薬散布用ヘリ、平成14年には自立制御による高圧送電線監視点検ヘリなど産業用無人航空機を実用化させ、最近では日本ではまだ許可の出ない一人乗り人命救助用の電動ヘリのコンセプトモデルを製作中である。

「誠実と和」を社是に、物心両面の「幸せ感」からくる「ありがとう」を地域や世界へ向けることを企業理念としている。「Feel the heart お客様の笑顔のために自分を変えていく力」をスローガンにしている。

■(株)北川鉄工所 (府中市)

資本金86億4千万円。従業員1268名。1918(大正7)年創業、1941(昭和16)年設立。2014年3月末の連結売上高は444億円。東証1部上場。社長北川祐治氏は府中

商工会議所会頭でもある。創業者は16年間市長を務めた。当日は北川日出夫常務に対応いただいた。

金属素形材事業（生型機械鋳鉄品、自動車部品、建設機械部品等）、工機事業、産業機械事業、自走式立体駐車場の4分野を展開。割合は素形材が50%（うち自動車部品が半分で、他に農機具など）、工機が20%（パワーチャックの国内シェアは7割）、産業機械が30%（生コン工場設備一式、橋梁クレーン、高層ビルクレーンなど）。

CFRP（炭素繊維強化プラスチック）加工専用機カーボンプロの紹介、2面摩擦接合の技術のデモがなされた。

グローバル展開を重要なテーマとし、生産拠点の海外移転、市場に近い場所でのものづくり、キタガワブランドの構築に力を注ぐ。中国（瀋陽）、メキシコ、タイにも進出し、工業機械や自動車部品を生産している。

「お客様第一主義」「素直な心と勇気」「社員満足」「イノベーション」という4つの価値観を社員が共有。

社会貢献活動にも力を入れ、ボランティア、地域イベント、会社イベントにも積極的で、被災者への援助、地域のお年寄りや子供たちが参加するイベントの手伝い、地域の文化芸術活動への支援も行っており、毎年7月の「備後国府まつり」では40～50人の社員が踊る。

■広島県東部機械金属工業協、電子関連企業交流グループとの懇談・懇親会（福山市）

現地の企業15名に広島県庁から4名が加わり、交流懇談を行った。当会服部会長と広島県東部機械金属工業協の唐川正明理事長の挨拶の後、各団体の活動内容を紹介し、当会天野副会長の乾杯の発声で懇親会が始まった。

広島県東部機械金属工業協は、昭和33年設立、組合員162社。理事長は唐川正明（栄工社社長。東青会と称する青年部があり、20歳から45歳までの会社の後継者、役員、経営者の集まりで、現在41名。研修・見学・懇親会を行っている）。

電子関連企業交流グループは、昭和59年シャープの半導体工場が福山市に立地するのに伴い先端的技術の地域産業移転、高付加価値製品の開発、協力企業群の形成を目的として設立、組合員32社。代表幹事は唐川正明氏。

和やかな懇談の中、出席者の自己紹介を行い、カイハラ（株）の貝原会長による中締めで交流会を終えた。

10月8日

■マツダ（株）（府中町）

資本金2589億円、従業員21,286名。1920（大正9）年設立。社長兼CEO小飼雅道氏。

当日は高橋良治国内営業本部副本部長の挨拶の後、年間6万人が訪れるマツダミュージアムを見学し、昔懐かしい名車の数々の展示に感激し、続いて多車種の一貫組み立てラインを視察した。

乗用車・トラックの生産は国内88万台、海外32万台（2013年3月31日現在、以下同じ）。販売は国内21万台、海外102万台で、売上高は連結で2兆2千億円（国内580億円、海外1兆610億円）。

広島湾沿岸部の埋立地220万㎡の広大な敷地内にバス

停が33か所、敷地の最長は7kmあり、企業が独自で架けた橋は完成当時世界最長の540mになる。

個性的な車作りで知られ、ロータリーエンジンを搭載した自動車を40年以上にわたり量産。近年は「スカイアクティブテクノロジー」により「走る歓び」と「エコ」を同時に実現している。特に作り込みにこだわり続けた新型デミオがカーオブザイヤー2014－2015を受賞した。



▲マツダ（株）にて

■（株）ハマダ（府中町）

資本金3千万円、従業員130名。1946（昭和21）年創業、1953（昭和28）年設立。売上20億円。社長濱田忠彦氏。

自動車部品の加工。鋳物、鍛造、アルミ、ステンレス等あらゆる材質の精密加工。エンジン部品、ミッション部品、車軸・ブレーキ部品などマツダ、ニッサン、ホンダの180種類の自動車部品を生産。刃物の円運動と加工物の回転運動との間に独自の角度を持たせ切削加工する装置の設計開発をする球面加工、ミクロン精度の鏡面仕上げ加工、複雑な形状加工などを得意としている。

NHKテレビ「超絶凄ワザ！究極の“真球”を目指せ」で金属加工の技術の高さを披露した。

最近では、ドイツでの展示会に参加して、2006年には、医療部品に参入を開始、広島大学教授の指導も得て、自動車産業で培った球面加工技術を活かし、人工関節など医療用部品の加工にも進出している。

■賀茂鶴酒造（株）（東広島市）

最後に、安倍首相が来日したオバマ大統領に酌をされたことで話題となった「特製ゴールド大吟醸賀茂鶴」の醸造元で、酒都・西条（東広島市）の酒蔵通りにある広島を代表する蔵元を訪問した。

1873（明治6年）賀茂鶴命名、1918（大正7年）年会社設立。資本金1千万円。従業員平常時80名、酒造時110名。社長藤原昭典氏。1900年のパリ万博の名誉大賞をはじめ、各種受賞歴が多数ある。

当日は、DVDで酒づくり工程の紹介の後、訪問団は数銘柄の試飲を楽しんだ。

なお、毎年10月上旬に開催される「酒まつり」は、18万人の西条の町に22万人が訪れ、救急車スタンバイの大イベントである。

■終わりに

台風一過の好天に恵まれ、広島に根差す企業の熱心な説明と歓待を受け、独自技術を持つ自負と、新しい時代に果敢に挑戦し続けるモノづくり企業の意気込みを感じた視察であった。

2014ミャンマー・カンボジア ビジネス視察団を派遣

本会では、平成24年度から3カ年計画で「中堅、中小企業の東南アジア展開支援事業」を推進しており、初年度は市場動向や進出企業の海外戦略等についてセミナーを開催。昨年度は、安定した経済成長を続けるベトナム、タイを視察。今年度は、急激に発展を続け、「タイプラスワン」といわれるミャンマーとカンボジアに「ビジネス視察団」（団長：瀬川晋弘 旭光精工㈱社長・本会理事、団員総数8名）を派遣した。両国の工業団地や経済特区、日系企業を訪問し、進出の際の苦心談や課題、解決策などについて直に話を伺い、今後の同地域への進出の可能性を探った。

■10月20日(月)

関空からバンコク経由でカンボジアのプノンペン空港へ約7時間半。到着後、約10キロの道程をバスでプノンペンホテルへと向かった。土埃が舞い上がる道路には溢れるほどのバイクが走り、2人乗りや3人乗りで、相手側車線に割り込むなど、強引な走行もみられた。そんな中、自動車は中古車に混じってレクサスなどの高級車も走り、現地ガイドからは、高所得者が増えつつあるとの説明もあった。また、カンボジアの人口約1500万人のうちプノンペンには約250万人が住んでおり、6割はカンボジア人で、2割はベトナム人、残りは中国人が殆どとの説明を受けると共に、道路を渡る際には事故に気を付けるようにとの注意があったが、とても渡る気持ちにはなれなかった。その日は、ホテルで夕食をとり、就寝。

■10月21日(火)

まず、最初の訪問は、韓国資本のヒュンダイが建設したオフィスビル「プノンペンタワー」にある「JETRO プノンペン事務所」。河野将史所長と伊藤隆友アドバイザーからカンボジアの経済や投資環境、進出日系企業の状況等についての説明を受けた。ここ10年のGDP成長率は7%台で、中間所得層の増加に伴い個人消費が活性化、ファーストフード店やブランド店が市内に続々と進出し、今年6月30日には、イオンモールが開業し、高級車を購入する世帯が急増しているとのこと。地価はどんどん上昇し、外国駐在員が集結するバンケンコンエリアでは、2013年に、2000～5000米ドル/㎡になったこと等を伺った。これまでの輸出品目は、衣類やその付属品が殆どであったが、近年、対日輸出で電気製品やその部品が増えつつあることの報告もあった。



▲JETROプノンペン事務所にて

午後は、清水建設に勤務していた日本人が経営するプノンペン特別経済地区を訪問。日本在住経験のある中国女性・趙敏茜シニアマネージャーから経済特区の概要説明として、360㏊の敷地は長方形で現在76企業が入居、

そのうち日本企業が42社と過半数を占め、操業しやすい状況が整っている事の説明があった。その後、この地区内にあり、女性用下着を製造しているルシアン・カンボジア社の池田新一社長から、操業時の労働者の採用や設備の整備等に関する苦労話、人の管理の難しさなどについて伺った。その後、地区内を趙マネージャーの案内で視察した。



▲ルシアン・カンボジア社の池田社長と
プノンペン経済特区の趙マネージャーとともに

終了後、本地区を出たところで、相当古いヒュンダイ製の貸切バスが動かなくなり、代わりのバスの到着を待つ、ホテルに戻った。その夜は、中華料理店で夕食。現地のガイドが所属するAPEX社の日本人社員、先枝咲希子氏（現地の男性と結婚）と須藤元輝氏に同席頂き、現地での生活等について伺った。

■10月22日(水)

8時にホテルを出て、セントラルマーケットを視察。時計や宝飾品を売る円形の中心市場から四方に伸びる市場があり、強烈なおおいを放つ肉や魚の専門市場と衣服や日用品等、品目ごとに区分された構成になっており、通路は狭いが、分かり易くなっていた。その後、高所得者が多く住むバンケンコンエリアにある高級スーパーと今年6月にオープンしたイオンモールも視察。来店客は少ないが、日本と殆ど変らない施設があり、子供の遊戯施設等が充実しているように感じられた。また、その周辺のダイヤモンド島開発地区をバスの中から見学。



▲今年6月30日にオープンしたイオンモール

フランス料理店で昼食をとり、プノンペン空港に移動。その日のうちにバンコク経由でミャンマーのヤンゴン空港へ。ホテルに向かう途中、地元料理の店で夕食。ヤンゴン中心部でのバイクは禁止されており1台も走っており、高速道路並みのスピードでホテルへ。日本の中古車が車体の文字もそのままに多く走っていた。京都市バスもほとんどそのままの状態で行っていた。

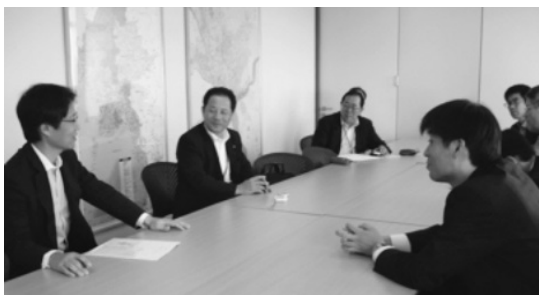
■10月23日(木)

午前、ミャンマー最大の寺院「シュエダゴンパゴダ」を視察。裸足で広い境内を参拝。当日は祝日で、国内外から多くの参拝者で溢れていた。



▲ミャンマー最大の寺院「シュエダゴンパゴダ」にて

その後、約20分で南ダゴン工業団地に到着。周辺と団地内の道は舗装が進んでおらず、でこぼこで、ゆっくり走行してもロード状態。鉄工所や木工所などをバスの窓から視察。道路等インフラの重要性を痛感させられた。その後、市内中心部で、土産物や日用品を扱うアウンサンマーケットを視察し、午後からは、その近くのサクラタワービルにある三菱商事ヤンゴン駐在員事務所を訪問。林慎二郎副所長から同社等日本の商社が共同開発を進める「ティラワ工業団地」の概要やミャンマーの将来性などについて伺った。



▲三菱商事ヤンゴン駐在員事務所の林副所長の説明

その夜は、翌日の訪問先のタムラ製作所の前田社長、阪急阪神エクスプレス社現地法人の小高毅社長とミャンマーの政治経済情勢や進出の際の留意事項などについて懇談した。2011年に民主化が始まったミャンマーへは、続々と外国企業が進出しているが、この国の法律を守り手続きを進めれば法律に守られるとの説明もあった。日本の明治維新の時のような時代の変化を感じ、日本から来ている自分たちがこの国を作っているように感じるとの意気込みを伺った。

■10月24日(金)

午前中ティラワ工業団地に隣接する港を管理運営する

ティラワ国際ターミナル社を訪問。Min Kyiジェネラルマネージャーから施設の概要等について伺い、輸入された中古の日本車がびっしりと並べられた港湾地域を抜け、造成中のティラワ工業団地を視察。来年操業開始予定で整備が進められていた。



▲造成中のティラワ工業団地にて

その後、再びでこぼこの道を走り、南ダゴン工業団地にある現地の電機部品メーカーと合弁会社を設立されたタムラ製作所を訪問。前田弘之社長から事業概要を伺い工場内を案内頂いた。私語も交わさず仕事に集中する社員の様子に感銘を受けた。



▲タムラ製作所・前田社長の案内による工場内視察

その後、JETROヤンゴン事務所を訪問し、高原正樹所長と牛腸純和アドバイザーから、これまで中国や韓国、タイが開発に深く関わり勢力を強めてきたが、今年8月には日本との投資協定も整い、今後の日本企業の進出が期待されることなどを伺った。



▲JETROヤンゴン事務所の牛腸アドバイザーの説明風景

その夜、ヤンゴン空港からバンコク経由で■10月25日(土)の早朝、関空に到着。4泊6日の短期間の視察ではあったが、日本にいた時には想像もできなかった程に急激な変貌を遂げている2か国を視察し、今後の東南アジアでのビジネス展開を考えるうえで、非常に有意義な視察となった。

第568回京都工業クラブ

7/18

松下幸之助の経営哲学とP H Pの戦略

～道をひらく積極的生き方～

(株)P H P 研究所 社長 清水 卓智氏

京都に本社を置き企業経営や人材育成関係を中心に、数々のベストセラーを出版するP H P研究所の清水社長をお迎えし、松下幸之助氏の経営哲学等についてお話をいただいた。

講演では、幸之助氏の基本基軸である人間観や、経営の道が紹介され、また幸之助氏から直接薫陶を受けてこられた清水社長のP H P研究所経営に関するお話等をお伺いし、経営の神様と言われた松下幸之助氏の一端に触れることのできた貴重な機会となった。



第569回京都工業クラブ

8/19

京のあたりまえ

～生活の中のモノづくりの原点をみつめる～

儀式作法研究会 代表 岩上 力氏

京都検定の講師を永年務められ京都の儀式作法の解説者としても著名な岩上氏をお迎えし、京都の生活やモノづくりの原点ともいえる京のしきたりや感性等についてお話をいただいた。

講演では、様々な実例をあげつつ、「千二百年の長い歴史の中にも京都の心が埋没することなく今日まで息づいてきたのは、京都人の知恵、人と物を大切に作る暮らしのモラル(道徳)とルール(作法・しきたり)」があったからである」と述べられ、「京都」を改めて考える良い機会となった。



第570回京都工業クラブ

9/12

劇的な変化の時代の企業経営

(株)船井総合研究所 社長 高嶋 栄氏

船井総合研究所創設者・船井幸雄氏の側近として活躍され、現在同社の社長を務めておられる高嶋氏をお迎えし、社会・経済情勢が劇的に変化する時代の企業経営の要点についてお話をいただいた。

講演では、「過去と未来に捉われると“今”がなくなる。今を全開で生きる経営を実践すること、小さく、毎日現場レベルで変化し続けること」が持続的成長企業の共通点・特徴であることや、また、会社の成長と質は、人材の数と質で決まる！として、人材開発力の大切さ等を述べられ、厳しい時代の経営について考える有意義な機会となった。



白鷺クラブ第448回例会

9/1

大宮 正常任理事を訪ねて

“京都工業会首脳との交流”をテーマとし、9月1日、本会常任理事・大宮 正氏(宝ホールディングス(株)副会長)を同社伏見西工場に訪問し、第448回例会を開催、当日は会員多数が出席した。

大宮常任理事から会社概要について説明がなされた後、「創業以来、様々な経営危機に直面してきたが、そのたびに独自の技術力とマーケティング力でその危機から脱出し、何とか現在に至っている。

今後は宝グループ全体の長期経営ビジョンとして、“国内外において環境変化に強い企業をめざす、バランスのとれた事業ポートフォリオをめざす”を定め全社でこれを推進している。」と述べられると共に創業以来170年にわたり、そして今日に至るまでの経緯、更には自らを支え続けた経営理念とあわせ明快に述べられ、出席者一同深い感銘を受けた。これを受けて日本酒の生産ラインを見学、利き酒等を行い同工場を後にした。

その後は会場を近くの「魚三樓」に移し、大宮常任理事をかこみ和やかな会食懇親会と活発な意見交換を行い、極めて有意義であった例会を終えた。

電子システム・メカトロニクス両研究科 8/29・30

一泊研修を行う

8月29、30の両日、開講間もない本年度電子システム・メカトロニクス両研究科合同の一泊研修として、綾部市での企業視察、舞鶴市での講演会及びグループ討議を行い、37名の研修生が参加した。

29日には京丹波町のクロイ電機(株)を訪問、和洋風の各種照明器具の生産ラインを見学、そして黒井社長の講話を聞いた。午後にはオムロン(株)綾部事業所を訪ね、制御機器、F Aシステム機器等の製造現場を見学した。

両社共、研修生にとり日常関わりの深い機器の生産工場であり、更には技術紹介も行われ、両社及び生産機器についての認識を深めた。

舞鶴市内で宿泊した翌30日には、同志社大学大学院(同志社ビジネススクール)藤原浩一准教授を講師に迎え、「テクノロジー&マネジメント」をテーマに講義と事例紹介を受け、興味深い様々な経営シミュレーションを体験、その後小グループに分かれての討議及び討議内容の発表を行った。

今回の一泊研修では普段の座学では得られない企業での実習、そして深更に及んだ合宿での意見交換、そして分科会の演習体験などを行い、充実した二日間の研修を終えた。

新規事業 モノづくり革新道場がスタート

今、激化するグローバル競争の中、モノづくり企業においては、明日の各社のモノづくり革新をリードする人材育成が求められている。

そこで、この度、本会ではこれらの課題に対応すべく、モノづくり革新を支える改善マインド（モノの見方、考え方）の研鑽を目的に新規事業「モノづくり革新道場」を去る10月28日(火)から17社21名の参加者でスタートさせた。

第1回例会は、(株)デンソーにおいて、全員参加による品質保証活動等を推進され、その後、そのノウハウを継承する組織であるモノづくりDNA室及び真弓塾を社内 に設け、社内人材の育成に多大な貢献をされ、現在はコンサルタントとして活躍されているPQMソリューションズ 代表 真弓 篤氏をゲストに迎え、基調講演を拝聴した。

真弓氏は、前日に現場で起きた不具合を解決するため、その現物を前に工場長以下の職制と関係部署が集まり問題を共有化し、横展開と対策のスピード化を図るために、「朝一活動」を開催し、起きた不具合をさらけ出す勇氣が社員の意識も変わり、著しい成果をあげた事例や、不具合が出た時の問題の大きさ毎に目標ランクを設定し、

その発生防止や流出防止を定量的に把握し、IT化（QAネットワーク）による部門横断的な情報の共有化、共通認識を議論してチームワークやコミュニケーションの強化による問題解決力の向上を図ってきた事例を紹介、管理者は、やる気の出る（能力を引き出す）組織作りに努め、リーダーは、コミュニケーション作りを目指し、常にやってみせられる改善サイクルを回すこと、部下は決められたことをしっかり守る心構えが重要であると力説された。

今後、当事業は、本会・生産問題懇話会のメンバーやそのOB等も講師を担当し、合宿研修を含めた活動を予定している。

＜今後の活動予定＞

11月例会「合宿研修～3S、5Sの真髓に触れる～」
エスベック(株)生産改革室 足立正和氏「3S」

(株)長濱製作所 社長 立入勘一氏「生産革新活動」
工場見学 亀岡電子(株)「モノづくり教育」

12月例会「TQMの実践、方針管理の仕組み強化」
(株)GSユアサ 取締役 村尾 修氏、部長 高溝広宣氏

2月例会「変化に俊敏に対応する現場力」
(株)堀場製作所 生産部長 柴原嘉彦氏

新入会員ご紹介

〈正会員〉

(9月19日、第297回理事会で承認されました。)

会 社 名	代 表 者 名	所 在 地 (TEL・FAX・取扱品目)
(株)乙訓重量建設	社 長 山 本 寛	〒617-0833 長岡京市神足拾貳19-3 TEL.075-951-7897 FAX.075-951-7909 業種：機械器具設置工事業・管工事業・土木工事業・ 電気工事業・建築工事業 販売品目：上下水・環境施設機械設備工事・重量物取扱工事・ 各種プラント工事及び施工管理・各種土木工事・ 機械設備補修及びメンテナンス
三 洋 化 成 工 業 (株)	社 長 安 藤 孝 夫	〒605-0995 京都市東山区一橋野本町11-1 TEL.075-541-0255 FAX.075-551-2557 化学品の製造・販売
太 平 工 機 (株)	社 長 那 須 眞 人	〒612-8307 京都市伏見区景勝町49-1 TEL.075-611-4181 FAX.075-621-8303 機械器具製造業（自動車搭載用ジャッキ等の製造）
日 立 造 船 (株) 舞鶴工場	工場長 小 東 清 孝	〒625-8501 京都府舞鶴市字余部下1180 TEL.0773-62-8925 FAX.0773-62-8827 精密機械等の設計、製作

〈特別会員〉

(株)三井住友銀行 京都法人営業本部	執行役員京都法人営業本部長 角 元 敬 治	〒600-8008 京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町8 TEL.075-221-2115 FAX.075-221-0719 金融業
(株)三菱東京UFJ銀行 京都支社	執行役員京都支社長 谷 口 宗 哉	〒600-8008 京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町10 TEL.075-211-1475 FAX.075-211-1259 金融業

黄綬褒章御受章の栄



常任理事

山岡 祥二 氏

(株)山岡製作所 社長)

会員各位とともに、心よりお祝い申し上げます。



ゴルフ同好会 (KIG)だより

▶平成26度第3回例会(第207回例会)結果

と き：平成26年9月20日(土)

ところ：琵琶湖カントリー倶楽部

参加者：19名(内、シニア6名)

優 勝 吉谷正紀氏(株)大興技研)

準優勝 B G賞 片岡宏二氏(株)片岡製作所)

3 位 田中光一氏(田中精工(株))

2015年 新春交歓会 ご案内

会員相互の懇親交流の場として「2015年 新春交歓会」を開催いたします。

会員皆様多数のご参加を得て、楽しく和やかに新春のひとときをお過ごしいただければ幸いです。

と き：平成27年1月20日(火) 18:00~20:00

と ころ：京都センチュリーホテル

参加対象：本会会員企業で、代表者を含め1社3名程度

内 容：☆正副会長ご紹介

(予定) ☆新入会員ご紹介

☆福引大会

☆ハッピーマン2015年選り…等

生産マネジメント研究会 ご案内

〈現場力、人間力強化のためのマネジメント研究を図る〉

グローバル経済の今日、モノづくり企業においては、国際競争を勝ち抜くための「現場力、人間力強化のためのマネジメント教育の必要性」が強く叫ばれております。

そこで、本会では「現場力および人間力強化のためのマネジメント研究」をテーマに「生産マネジメント研究会」を下記により開催いたします。

記

と き：平成26年12月5日(金)~平成27年3月24日(火)
(計5会合)

ところ：京都工業会館 又は 訪問先企業

対 象：開発、設計、品質保証、生産、生産技術、購買資材部門の課長クラス

研究方針：○スピード開発、生産革新及びSCM時代のグローバルマネジメントの研究

○TPM(設備保全)、LCA面からのコストダウン研究

○部下の改善マインド向上の研究

運営形態：幹事役を中心にゲスト事例紹介&討議、工場見学

参加費：会員企業 41,000円(税込) / 人

問合せ：(公社)京都工業会 業務課
(TEL) 075-313-0751

〈プログラム〉

■12月5日(金)

☐オリエンテーション

☐基調講演と意見交換

「グローバルSCM時代のモノづくりのあり方」

(株)アロービジネスメイツ 顧問・コンサルタント 有馬廣忠氏

■1月29日(木)

☐ゲスト事例研究

「生産革新活動による改善マインドの強化~活人化の勧め」

愛知工業大学 客員教授 加藤典孝氏

■2月23日(月)

☐オムロン京都太陽(株)訪問

「総合改善活動(徹底3S、工程FMEA、LCA)」

(・資本金1500万円・従業員数27名・電気機械器具の製造)

■3月24日(火)

☐ゲスト事例研究

「開発・設計・生産連携によるスピード経営

~品質工学を中核にしたビジネスモデル~」

リサーチデザイン研究所 代表・工学博士 平野正夫氏

「TRIZを活用したスピード開発~サムスン電子等の事例を含め~」

(株)アイデア 社長 前古 護氏
(日本TRIZ協会・副理事長)

訃報



坂東 和彦氏

(TOWA(株) 会長)

(平成11年5月～本会理事
平成13年5月～平成26年5月まで
本会常任理事
6月22日、ご逝去されました。
(享年78歳))



堀 八郎氏

(太陽精機(株) 会長)

(昭和51年5月～本会理事
昭和62年5月～平成22年5月まで
本会常任理事
8月15日、ご逝去されました。
(享年93歳))



武村 辰憲氏

(双和電機(株) 社長)

(平成26年5月～本会監事)
7月18日、ご逝去されました。
(享年61歳)

■佐藤 鐵夫氏

(株佐藤製作所 創業者)

9月15日、ご逝去されました。(享年90歳)

ここに、会員各位とともに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

事務局だより

佐藤 辰巳 (業務推進役)

10月21日に事務局に着任しました。
(株島津製作所から出向)



京都工業会事務局及び京都工業会館
年末年始休業日のお知らせ
平成26年12月27日(土)～平成27年1月4日(日)

〈外部情報〉

【京都府より】

今冬の節電対策について

期 間：平成26年12月1日(月)～平成27年3月31日(火)の平日
(年末年始12月29日～1月4日を除く)

時 間 帯：9時～21時

取組内容：平成22年度冬比▲7%(昨冬の節電実績と同様)を目安とした節電の実施

留意事項：

- ・高齢者や乳幼児、体調が悪い方のおられるご家庭には、健康上支障のない範囲での節電をお願いします。
- ・産業活動、病院・福祉施設、鉄道などのライフライン機能、都市機能等の維持に支障を生じない範囲でのご協力をお願いします。

【京都府より】

平成26年工業統計調査に御回答ください

工業統計調査

この調査は、我が国の工業の実態を明らかにすることを目的とした統計法に基づく報告義務がある重要な統計で、その結果は、国や地方公共団体の産業振興計画などの基礎資料となるほか、広く一般に利用されています。

経済センサス活動調査を実施する年の前年を除き、毎年12月31日を調査日として実施されます。

調査票でお答え頂いた内容は、統計作成の目的以外(税の資料等)に利用されることはありませんので、調査票への御回答をお願いします。

調査の内容に関するお問い合わせは、

京都府政策企画部企画統計課産業統計担当まで

(電話075-414-4509・4510)

調査対象

製造業を営む事業所で、以下のとおり

甲調査:従業者数(臨時雇用者を除く)が30人以上の事業所

乙調査:従業者数(臨時雇用者を除く)が4～29人の事業所

調査内容

従業者数、製造品出荷額、現金給与総額、
原材料使用額、有形固定資産など

京都工業会ニュース No.380

■2014年11月21日発行

■発行——公益社団法人 京都工業会

〒615-0801 京都市右京区西京極豆田町2
TEL.075(313)0751 FAX.075(313)0755
U R L : <http://www.kyokogyo.or.jp>
E-mail : info@kyokogyo.or.jp